芸術祭開催中

文化・芸術によるまちづくりをめざして

第6回香美市芸術祭・地区文化展が、開催されています。10月12日に開催された写真審査会（プラザ八王子）と11月5日に開催された短歌会・俳句会（香北町猪野々集会所）の結果は今月号の裏表紙に掲載しています。

物部地区文化展

▲地区文化展

11月12・13日、物部地区文化展（物部地区公民館主催）が奥物部ふれあいプラザで、11月19・20日、香北地区文化展（香北地区公民館主催）が市基幹集落センターで開催されました。地域の方々の絵画や書道、写真など多くの力作が展示され、また物産展なども行われ、多くの方々が来場されました。

▲土佐山田町合唱団定期演奏会

11月20日、中央公民館で土佐山田町合唱団定期演奏会が開催されました。

郷土の生んだ音楽家**有澤一郎先生**の楽曲を中心に、美しいハーモニーで観客を魅了しました。

ゲストコーナーでは**こどもこーらす**が、天使の歌声を響かせていました。

観客との合唱もあり、多くのプログラムをとおして会場が一体となりました。

▲社交ダンス発表会

10月10日、中央公民館で社交ダンス発表会が開催されました。市内外の社交ダンスグループから多くの参加がありました。演技発表後には、プロのデモンストレーションが行われ、観客はダンスの世界に魅了されました。

▲芸能大会

芸能大会が、10月23日に奥物部ふれあいプラザで、11月6日に中央公民館で開催されました。

市内のグループによる舞踊やコーラスなど、日ごろの練習の成果が次々と舞台の上で繰り広げられ、観客から盛んな拍手が送られました。

文化展 開催のお知らせ

日　時　1月21日（土）9時～17時
　　　　　22日（日）9時～16時

場　所　香美市立美術館

絵画・書道・生け花・手工芸・陶芸などの展示が行われます。

【問い合わせ先】
生涯学習振興課　☎53−1082

香美市文芸　風の流れ

◆一般投稿作品◆　広報委員会　選

厨にて松茸飯の炊ける音　楮佐古きよ
高山が花の古里鳥兜　福留とものり
初雪や二十三士の殉節地　山崎　貴子
来し方は言はず語らず冬の鵙　森本　幸美
ひとり生えのトマト色づき秋桜　坂本美智子
名も知らぬ花に出会いし路の秋　北村千鶴子
家こわし遠山遙か秋空に　有澤　春江
つかの間の炎乾びて曼殊沙華　千頭　野草
思い出の糸をつむぐや年の暮れ　森本　純喜
夏痩せを久々知人見抜きおり　高野　和一
露草のセメントの上に花つけし　小原　子川
秋風吹きリュウキュウの茎まだ取らず　小野寺朱実
道路鏡光はじけて晩夏の日　原　すみれ
檜扇や風に浮かれて舞をまう　三谷　誠郎
彼岸花コスモス咲きて秋に為り　岡村　和躬

◆かがみ野俳句会◆

跪き祈る案山子や雲遥か　佐竹　洋子
里人の絆の固し案山子祭　佐藤　幸
お下りの服の似合ひし案山子かな　利根　弘子
秋興の太鼓の響き峡谺　古川　信子
月更けて恙無き日の戸を締める　小松　愛子
コンテスト終へて案山子の行方かな　中澤　美晴
靴音の去りて案山子の孤独かな　山崎　鈴子
帰宅遅き子への一灯十三夜　吉田　芳

◆韮　句　会◆

ふりかへるおのが人生万年青の実　公文　春紀
稲の花揃ふを見しか農夫逝く　岡本かほる
柿熟れて手の届かざり山の畑　高橋　章
新米の炊ける香の満つ厨かな　明石ゆきゑ
どんどどん響く和太鼓十三夜　篠崎　亜希
秋茄子や母と長子の夕餉の灯　北村　幸子
天高しバイクで駆ける郵便夫　西川　常夫
秋の夜の獨酌の子に声掛けず　甲藤　卓雄
描きつつ舐めてもみたり通草の実　國澤　英
奥土佐へ道つらぬけり曼珠沙華　野崎　典子
生き延びる老犬の目や秋深む　北村　里子
一斉に気負い競り合い貝割菜　小野川順子
生え揃う出来栄え楽し貝割菜　前田　芳子
二度蒔きのわっと伸びたる貝割菜　中内ゆかり
露けしや日ざし一斉万華鏡　竹内　ろ草

◆かほく俳句会◆

川石の白き小さき秋拾ふ　乾　真紀子
遠縁の男新米持ち呉れし　奥宮さとみ
水澄むや馬鹿正直の顔映す　黒岩　幸女
草は実を捧げて山の神の道　黒岩千英子
波打てる岬に動く根釣り人　小松　完
山際に赤き点滅鹿脅し　小松　隆之
老妻の野菊のごとき時ありぬ　小松　昇
妹に母の面影秋彼岸　杉山　春萌
食堂の裏窓越しの苅田かな　野村　里史
蛇穴に入りたる風の音ばかり　前田　欣一
秋収め刃物祭りへ連れ立ちぬ　前田　秀女
地を擦りて紺したたらす秋茄子　間崎　和代
秋深み壁に影置く座敷杖　森本　之子
嚔して空の頭の痛むなり　山崎かずみ

髪赤き女の拾ふ茶の木の実　山中　晶子
山雀に名前を付ける山日和　山中　瑞輝
送り出て月に子の無事祈るなり　山中　明石

◆土佐山田町俳句会◆

ピッケルの先でこねだす毬の栗　明石　韮生
亡き夫の眼鏡で見ている秋の雲　中沢としみ
道草の子にゆれやまず秋桜　大石　邦男
大粒も小粒もなべて零余子飯　森田　菊恵
静寂や横笛しみ込む秋の夜　前田　三郎
秋の風塩鯖売りがおりてくる　安丸　槙子
餓鬼大将が棉の実を摘んでおり　前田美智子
ひたすらにただひたすらに栗を剥く　前田　小夜
妻という不思議な他人獺祭忌　橋本　昭和
山茶花の咲き初め庁舎落成式　樫谷　雅道
落人の伝説の村霧包む　田村　一翠

今月のキラリ

家こわし遠山遙か秋空に

家が無くなってみると、今まで見慣れた風景がより大きく新鮮に目に映った。

俳句・短歌の投稿方法

▼投稿方法は自由。（ただし、ハガキで投稿の場合、一人一枚のハガキで5句（首）以内）

▼かい書で、住所、氏名、電話番号を必ず明記してください。

▼俳句は偶数月、短歌は奇数月に掲載します。掲載月の前月の1日までに投稿してください。

▼誌面の都合により掲載されない場合があります。なお、選者の添削を不要とする方は添削不要と記してください。

【投稿先】総務課内広報委員会事務局「俳句・短歌」係
〒782−8501（住所記載不要）　FAX 53・5958